

透析専門施設の看護師を対象としたバーンアウト状況と

職業キャリア成熟尺度調査

衆和会 長崎腎病院

○岩井由紀子 丸山祐子 澤瀬健次 原田孝司 船越 哲

【目的】

透析専門施設において看護職に従事する者のバーンアウト状況が職業キャリア成熟度に関連があるかを調査する。

【方法】

透析施設における看護師、血液浄化センター36名透析病棟35名を対象にバーンアウト状況、職業的成熟度について質問紙を用いた調査を行った。バーンアウト状況はマスラック・バーンアウト測定尺度 (Maslach Burnout Inventory) を使用し、職業的成熟度は職業キャリア成熟尺度を用いた調査を行った。

【結果】

職業的成熟度における「脱人格化」は関心性・自律性・計画性すべての尺度で負の相関を認め、職業成熟度が高くなるほど、その中でも特に「自律性」が高いスタッフほどバーンアウトの「脱人格化」が有意に低かった。職業成熟度は20代と40代で他の年代より有意に低かった。

【考察】

20代と40代でバーンアウトに陥りやすい理由としては、スタッフの多くが女性であり、結婚・出産などのライフイベントとの関連等も考えられ、これらの年代へのアプローチが求められる。